

アイヌ生活文化再現マニュアル

矢筒

【イカヨブ・イカヨピコロ】

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

発刊にあたって

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構は、平成9年7月の創設以来、アイヌ文化の振興、アイヌの伝統やアイヌ文化に関する知識の普及と啓発、アイヌ文化等に関する研究の推進や助成などの各種事業を実施しております。

そうした事業の一環である「アイヌ生活文化再現マニュアル作成事業」は、アイヌの伝統文化を、映像や音声、文字などによって記録し、アイヌの人々をはじめとして、広く一般の人々や研究者の利用に供することにより、アイヌ文化の伝承・保存を図ることを目的としています。

本マニュアルがより多くの人々の利用に供され、アイヌ文化の振興が推進されるとともに、我が国の多様な文化の一層の発展が図られれば幸いです。

目 次

はじめに	7
イカヨブ（狩猟用矢筒）	9
材料	10
道具	12
接着剤をつくる	13
サイハイランの根	13
シカのみつま先	14
本体製作	16
本体をつくる	16
本体を削る	18
本体を張り合わせる	20
サクラの樹皮を加工する	22
サクラの樹皮を巻く	25
フレラフをつくる	27
イクパスイをつくる	30
蓋をつくる	32
矢筒を組み立てる	34
完成	37

イカヨピコロ（飾り矢筒）	39
材料	40
道具	42
本体製作	43
本体をつくる	43
文様を彫る	50
金属飾りをつくる	52
フレラフをつくる	55
着色する	58
サクラの樹皮を巻く	59
紐を取り付ける	61
完成	62
おわりに	63
参考文献	64
イカヨフ・イカヨピコロを展示・収蔵している施設	66

— 凡 例 —

・映像編で入れることのできなかつた解説等も記しました。したがって、文言等で映像編と一部異なる個所があります。

はじめに

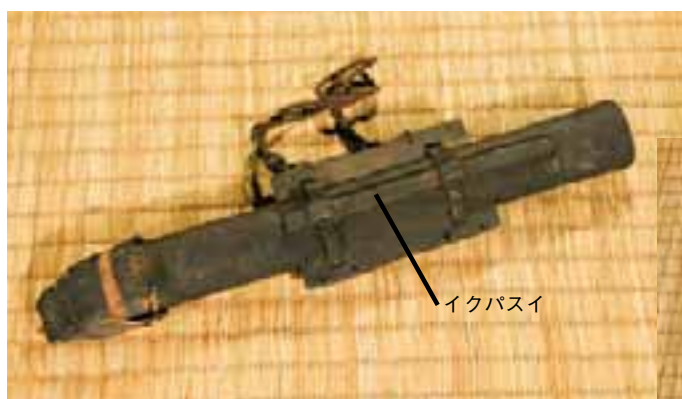
アイヌの人々に伝わる矢筒には狩猟で使われるイカヨブ（狩猟用矢筒）や儀礼に用いられるイカヨピコロ（飾り矢筒）があります。

かつて狩猟はアイヌの男性の重要な仕事のひとつであり、鉄砲が使われる前には弓矢が代表的な狩猟具でした。男たちは弓を手に持ち、自らがつくったイカヨブに矢を入れて背負い、猟へ向かうのです。



「明治初期アイヌ風俗絵巻」（函館市中央図書館蔵）

イカヨブには猟の安全を願い、獲物を授かったときに神々に感謝の祈りを捧げるためのイクバスイ（捧酒箸）が取り付けられています。



イカヨブ（旭川市博物館蔵）



矢（旭川市博物館蔵）

イカヨピコロはクマの霊送りなど、重要な儀礼が行われるときに祭壇にかざられ、宝物として大切に扱われていました。



*下写真—祭壇部分拡大

様々な捧げ物の中にイカヨピコロがあります(黒○内)



平澤屏山「アイヌ熊送之図」(函館市中央図書館蔵)

イカヨピコロにはアイヌの人々が和人との交易で得たもの(移入品)と、アイヌの人々自らが製作したもの(自製品)があります。移入品のイカヨピコロには和人の家紋があしらわれたり、漆が塗られています。自製品はこのイカヨピコロを基に、独自の文様を施して製作したといわれています。



イカヨピコロ(移入品、旭川市博物館蔵)



イカヨピコロ(自製品、平取町立二風谷アイヌ文化博物館蔵)

このマニュアルではイカヨブとイカヨピコロの2種類の矢筒のつくり方を紹介します。

イカヨブ (狩猟用矢筒)

イカヨブをつくります。補強するために本体をフレラフではさみ、イクバスイを取り付けます。
(写真1)

【寸法】

長さ 55cm
幅 12cm
高さ 8cm

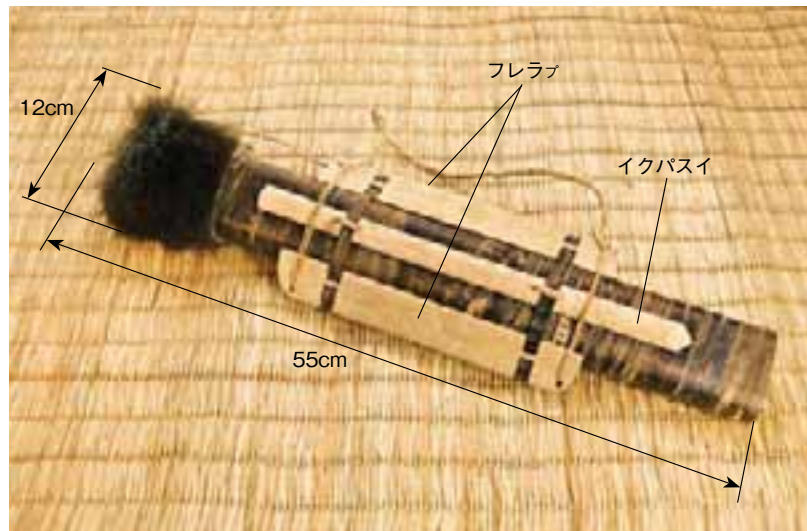


写真1

蓋にはクマの毛皮を使います。(写真2)



写真2

※ここで紹介するイカヨブは浦河町に住む浦川太八さんが再現したものです。

- シナの内皮でつくった紐 (写真6)

シナの木をアイヌ語でニペシニといい、内皮をニペシといいます。内皮を裂き、紐にして使います。

※シナの採取・シナの紐については、「アイヌ生活文化再現マニュアル 編む(サラニフ編)」をご参照ください。



写真6

- クマの毛皮 (写真7)

矢筒の蓋に使います。今回はクマの手の毛皮を使いました。クマの毛皮は丈夫で防水性に優れており、貴重なものでした。

- シカの臄 (写真7)

シカの背中中の臄を使います。シカの臄は丈夫で切れにくいことが特徴で、縫い糸に使います。



写真7

- サイハイランの根 (写真8)

接着剤として使います。

- シカのつま先 (写真9)

接着剤として使います。



写真8



写真9

道具

道具は削る場所に応じて使い分けます。(写真10、11、12)



写真10

①イノウケマキリ（イノウ（木幣）をつくる小刀）

②平のみ

③レウケマキリ（刃の先が曲がった小刀）

※今回使うレウケマキリは特別に注文してつくったものですが、かつて矢筒をつくるときはマキリ（小刀）を曲げて使ったといわれています。

④内側をくりぬくための道具（2種類）

⑤切り出し（3種類）



写真11

⑥鉋

⑦まさかり

⑧木槌

⑨トクサ（やすり）

研磨剤として使います。



写真12

接着剤をつくる

アイヌの人々が木彫品などの接着剤の材料として利用するものなかにはサイハイランの根やサケの皮、シカをつま先などがあります。今回は浦川太八さんのつくり方を再現し、サイハイランの根とシカをつま先を使用した接着剤をつくります。

ーサイハイランの根ー

サイハイランはラン科の多年草です。(写真13) アイヌ語では根を噛むと粘って歯につくことから、歯につくという意味のイマクコトウクといいます。秋には直径1cmほどの球体をした根が数個つきます。(写真14) 根はすべて採らず、翌年のために一部を土に戻します。



サイハイラン

写真13



サイハイランの根

写真14

サイハイランの根をきれいに洗い、4～5分火にかけます。(写真15)



写真15

柔らかくしたものをヘラでつぶし、粘りが出るまで練って完成です。(写真16、17) 使うときには湯でのばし、指で薄く塗ります。



写真16



写真17

ーシカのみつま先ー

シカのみつま先を用意します。

鍋にシカのみつま先をそのまま入れ、柔らかくなるまで煮込みます。(写真18)



写真18

柔らかくなったシカをつま先を鍋から取り出し、マキリで爪、骨、毛皮を取り除き、中身を鍋に戻します。(写真19、20)



写真19



写真20

再び火にかけ、途中でザルでこして煮詰めます。
(写真21)



写真21

あめ色になり、粘度を増したものをガラスや金属板などに乗せます。(写真22)
固まるとでき上がりです。(写真23) 使うときには湯とともに火にかけ、よく溶かして指で塗ります。



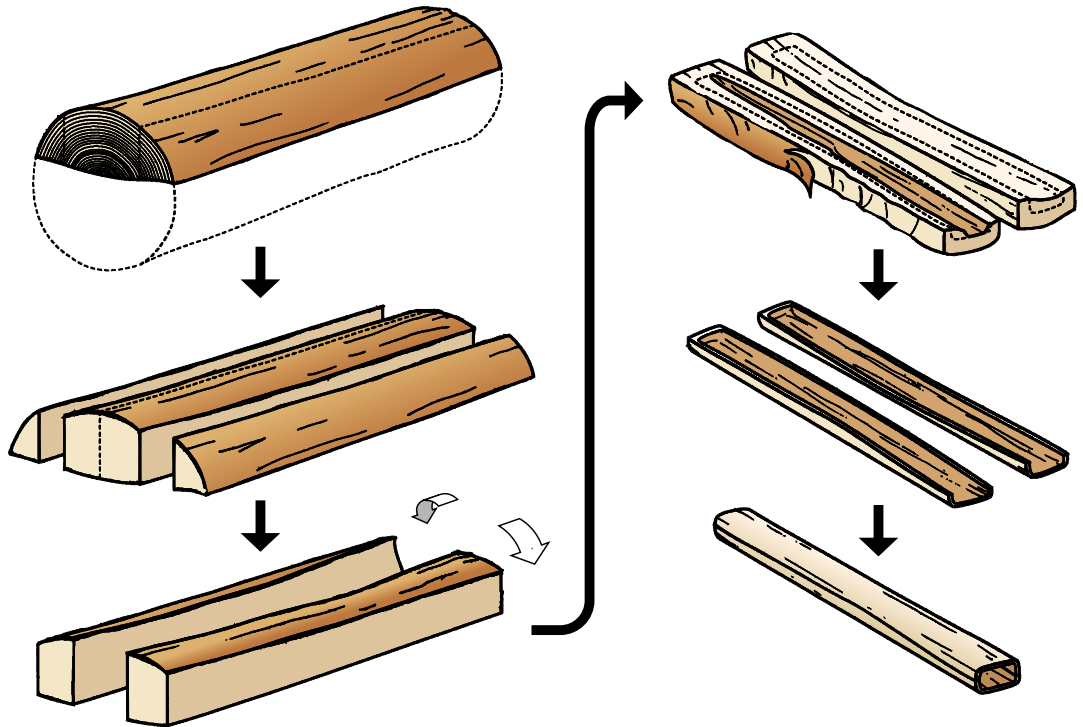
写真22



写真23

本体製作

本体製作の流れ



本体をつくる

ホオノキを切ります。
まさかりと木槌でホオノキ（長さ約70cm）の周辺部を落とし、木口を15cm四方の大きさにします。（写真24）



写真24

次に木目に直角に刃をあてて割り、割れた面を刃で傷つけないように手で裂きます。

(写真25、26)



写真25



写真26

外側はまさかりや鉋を使って大まかに削ります。(写真27、28)



写真27



写真28

本体を削る

レウケマキリを使い、内側を削ります。

手前に引きながら、一度に深く削らず、全体の様子を見ながら削ります。(写真29)



写真29

内側をある程度削った後、鉋を使って外側を落とします。本体を組み合わせたとき、内側、外側ともにまっすぐになるように厚さを測りながら少しずつ削り、形を整えます。(写真30、31)



写真30



写真31

イノウケマキリや平のみを使って外側の凹凸を整えます。(写真32)



写真32

内側の仕上げをします。トクサを2～3本丸めて手に持ち、こすります。(写真33)

さらに、本体を削ったときに出る削りくずを束ねてこすると磨きがかかります。磨くことで矢の出し入れが滑らかになります。(写真34)



写真33



写真34

外側、内側ともきれいに形が整いました。

本体の寸法は長さ53.5cm、幅7.5cm、内法は長さ52cm、幅6.5cmです。(写真35、36)

断面はアルファベットのU字型になっており、厚さは5～6mmです。

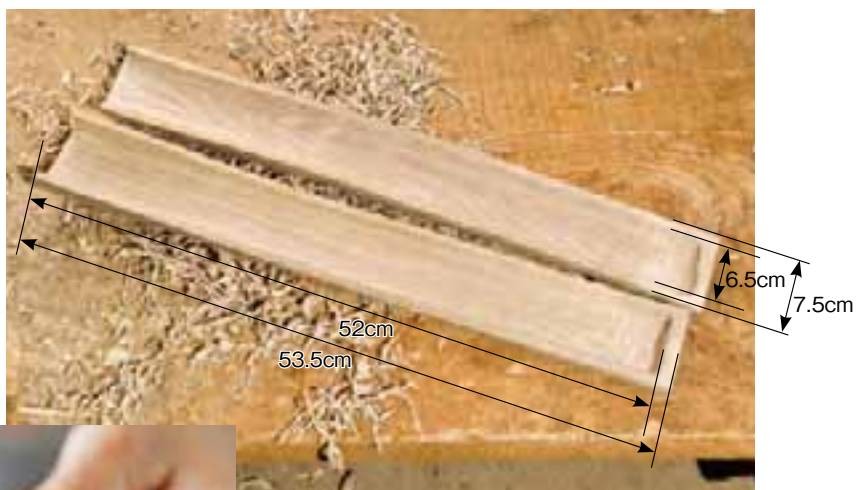


写真35



写真36

本体を張り合わせる

接着剤にはサイハイランの根を使います。

(写真37)



写真37

湯でのばしたサイハイランの根を指でそれぞれの面に塗り、素早く張り合わせます。(写真38)



写真38

紐を使い5箇所固定します。接着剤を固まらせるために一晩置きます。(写真39、40)



写真39



写真40

一晩固定した後、紐を外します。接着剤が固まり本体が固定されました。張り合わせでできた段差などを平のみで削り、形を整えます。(写真41)



写真41

本体ができました。張り合わせた面はぴたりと合っています。(写真42、43、44)



写真42



写真43



写真44

サクラの樹皮を加工する

乾燥させたサクラの樹皮を湯に数分間漬け、柔らかくします。(写真45)



写真45

柔らかくなったところで繊維に沿って切り、幅1.2cmの帯状にします。こぶのところは割れたり裂けたりするので使いません。(写真46)

マキリを使って端を裂き、層をはがすようにして樹皮を薄く剥ぎます。(写真47)



写真46



写真47

表側の皮を使います。
外側の凹凸は削いで平らにし、内側も薄く削ります。(写真48)

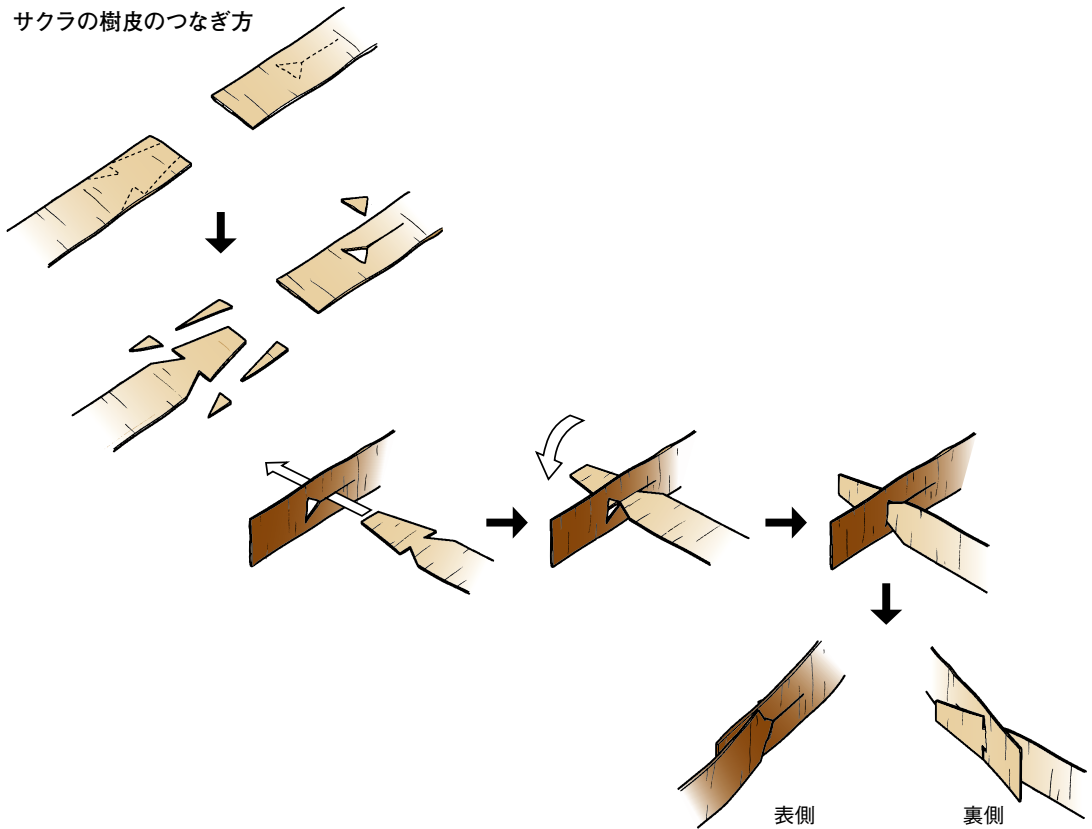
茶褐色になる1mm以下の厚さまで削ります。



写真48

サクラの樹皮の帯を長くするため先端を加工し、つなぎます。

サクラの樹皮のつなぎ方



差し込む側の樹皮の端から1.3cmのところを左右三角の切れ目を入れ、先端を細くします。(写真49)
受け側の樹皮も同じく端から1.3cmのところの中央部分を三角に切り抜き、さらに繊維に沿って1.3cmの切り込みを入れます。(写真50)

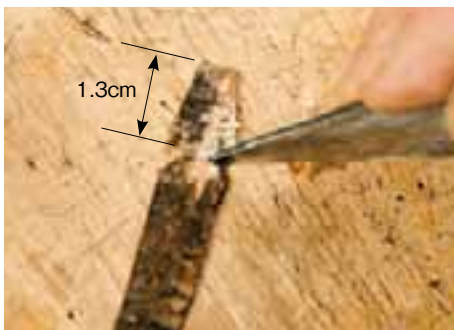


写真49

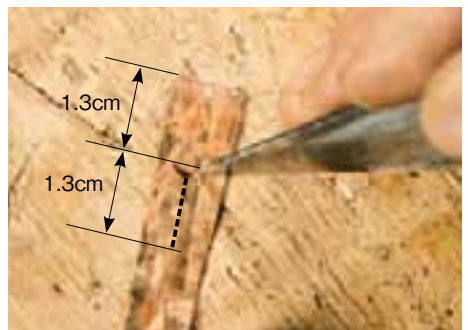


写真50

樹皮の差し込む側の先端は槍型になり、受け側の切り込みは丁の字型になります。(写真51)



写真51

樹皮をつなぎ合わせます。
受け側の切り込みに差し込む側の先端を入れ、くびれのあるところまで通します。(写真52)



写真52

受け側の樹皮の三角の切り込みで回転させ、表面と裏面を合わせてつなぎます。(写真53、54)
この作業を繰り返し、いくつかの樹皮をつなぎ合わせます。矢筒に巻きやすいよう、1mほどの長さにしておきます。



写真53



写真54

サクラの樹皮を巻く

本体にサクラの樹皮を巻きます。樹皮の端は、巻く角度に合わせて三角に切り落とし、矢口側から巻き始めます。(写真55)

樹皮の裏側に接着剤を塗り、指で押さえながら巻いていきます。矢口側を上にし、右回りに巻きます。

矢口側から底側へと向かって隙間ができないように、きつく締めながら巻きます。(写真56)



写真55



写真56

所々で接着剤を塗り、樹皮を継ぎ足しながら巻いていきます。(写真57、58)



写真57



写真58

巻き終わりは、樹皮の端をひと巻き前の樹皮の下に通してしっかりと引いて締め、余った部分やはみ出た部分を切り落とします。(写真59、60)



写真59



写真60

サクラの樹皮を巻き終わりました。サクラの樹皮は収縮性があるので、乾くと縮まり、張り合わせた本体を補強します。また防水性にも優れているので、多少の雨でも本体が壊れることはありません。(写真61、62、63)



写真61



写真62

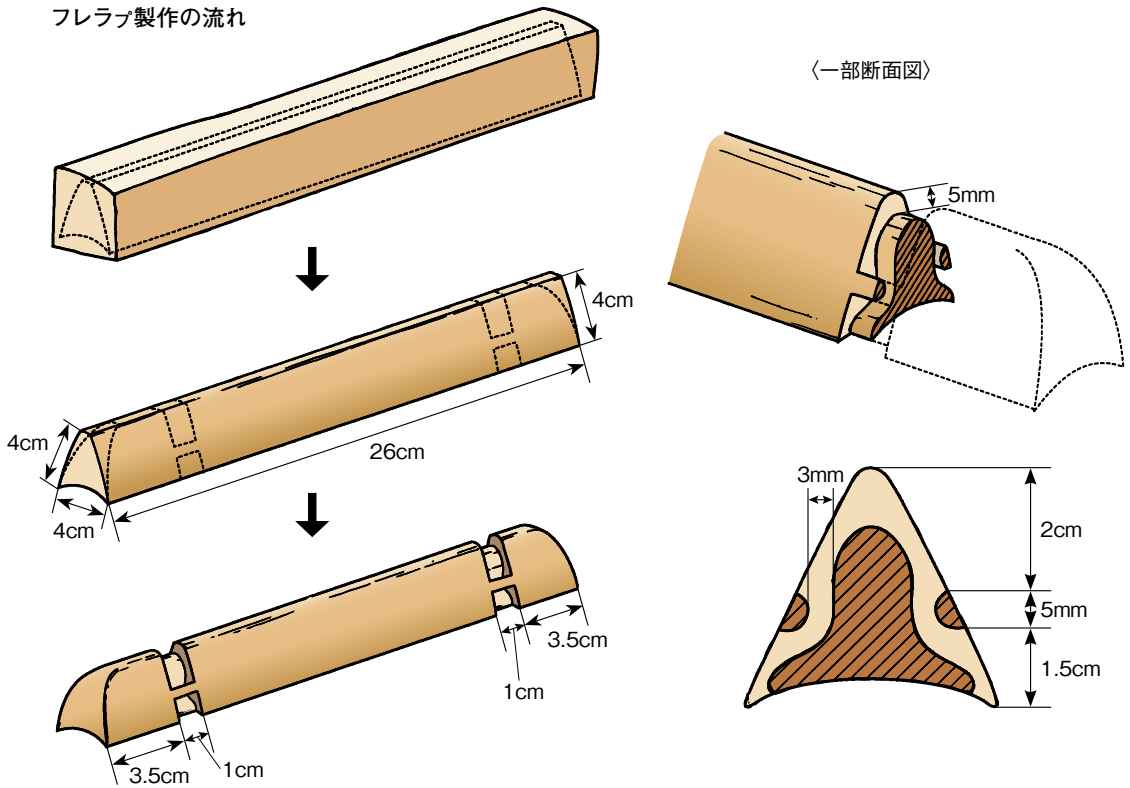


写真63

フレラップをつくる

フレラップをつくります。フレラップは本体を両側からはさんで、本体を補強し、背負いやすくするためのものです。材料はホオノキで、本体の残りの端材を使います。

フレラップ製作の流れ



鉋で長さ26cm、1辺4cmの三角柱にします。

(写真64)



写真64

底面を矢筒側面のカーブに合わせて削り、上部の角も削ります。(写真65、66)



写真65



写真66

本体と固定するためのサクラの樹皮を通す溝をつくります。両端からそれぞれ3.5cmのところ
幅1cm、深さ5mmで削ります。(写真67)

ここに樹皮を通すことで、フレラフが抜け落ちることはありません。



写真67

両端の角を切り落とし、滑らかなカーブを描くように削ります。(写真68)



写真68

きりで直径3mmの穴をあけ、マキリを使って文様を彫ります。

かつてアイヌの人々は、マキリ一本で文様を彫ったといわれています。今回彫った文様は浦川太八さんがこれまでによく使ってきた文様です。(写真69、70)



写真69



写真70

フレラフができました。文様は左右対称となっており、向かい合わせに使います。

(写真71、72)



写真71



写真72

イクパスイをつくる

矢筒に取り付けるイクパスイをつくります。木の先のほうがイクパスイの先になるようにして使います。(写真73)

薄く削っていき、幅3cm、厚さ5mmにします。その際、フレラプにつけた溝と同じ間隔で、表側の2箇所を厚めに残しておきます。



写真73

イクパスイの先を三角に削り、上面を薄く削ぎます。後側は角度の広い三角に削ります。

(写真74、75)



先側

写真74



後側

写真75

マキリの刃を立てて表面を削り、凹凸をならしていきます。

さらに、トクサでこすり、表面を滑らかにします。断面は中央がふくらんだ凸面状になります。

(写真76)



写真76

文様を彫ります。

この文様は浦川太八さんが先祖から受け継いだ文様です。マキリのみで彫ります。(写真77)

凸部分にサクラの樹皮を通すために、横1.3cm、縦2～3mmの四角い穴をあけます。(写真78)



写真77



写真78

イクパスイができました。

イクパスイはアイヌの人々の祈り詞や献酒をカムイ（神）へ届けてくれるものです。

イクパスイの裏には、浦川太八さんのイトッパ（先祖の印）がつけられています。(写真79、80)



写真79



イトッパ

写真80

蓋をつくる

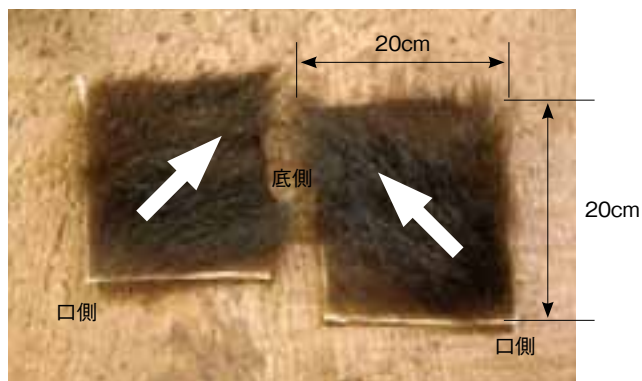
蓋をつくります。クマの毛皮とシカの脛を使います。クマの毛皮を20cm四方の大きさに裏側から切り、毛皮を2枚張り合わせて使います。

(写真81、82)

クマの毛皮は、雨が降っても水をはじき、雪がいつでも簡単に取れます。



写真81



*矢印は毛の向きを示します。

写真82

毛皮を縫う糸にはシカの脛を使います。脛は金槌でたたくと、繊維に沿って裂けます。

(写真83)

細い繊維を7～8本束ね、撚って縫い糸にします。(写真84)

シカの脛は丈夫なので、縫い糸の外、弓や楽器の弦などに使われてきました。

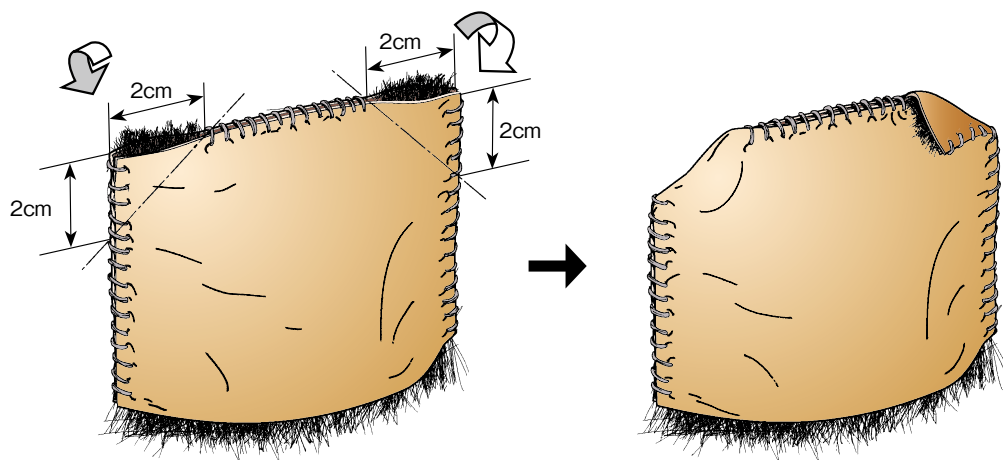


写真83



写真84

毛皮の縫い方



糸は皮用の縫い針に通し、端は玉結びにします。
毛の向きを確認し、裏側からかがり縫いをします。
5mmほどの間隔をあけて縫っていきます。
向かい側も同じように縫い、筒状にします。

(写真85)



写真85

上部は両端を2cmずつ残し、中央のみ縫います。
本体と蓋をつなぐ紐を通すため、両端は縫わずにあけておき、左右逆に織り込みます。(写真86)
表に返します。蓋ができました。(写真87)



写真86



写真87

矢筒を組み立てる

矢筒を組み立てます。フレラブの両端にあけた穴にシナの紐を通し、矢筒の中央部にイクパスイと共に仮留めします。その際、イクパスイは先を底側に向けて留めるようにします。(写真88)



写真88

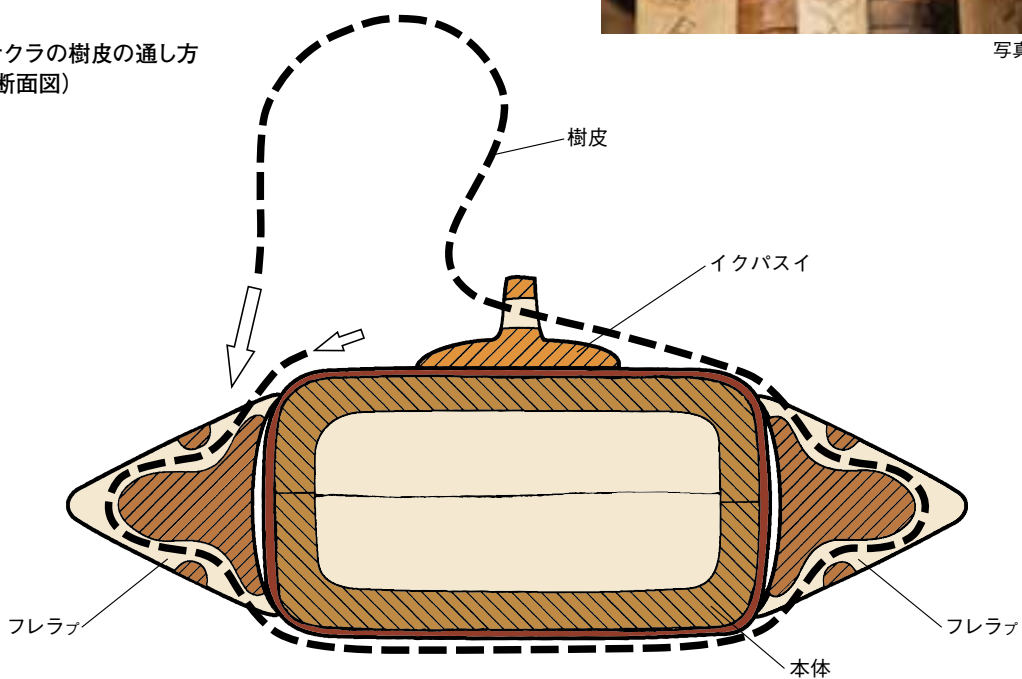
サクラの樹皮を使い、フレラブとイクパスイを固定します。湿らせた幅1cmの樹皮を、フレラブにあけた溝と穴に通します。

イクパスイにも通して2周させます。(写真89)



写真89

サクラの樹皮の通し方
(断面図)



2周させた後、フレラプにあけた穴に樹皮を通し、折り返します。(写真90)

樹皮を引いて輪を小さくしていき、締めていきます。接着剤などは使わず、余った部分は切り落とします。

樹皮で固定し、仮止めの紐を縛りなおします。結び目は目立たないように本体の裏側につくります。(写真91)



写真90



写真91

蓋と本体をつなぎます。

紐の長さを決めます。蓋をはずしやすいよう、本体から数cm離れた長さにします。(写真92)



写真92

蓋を裏返し、縫い付けていない角に紐を通します。

(写真93)

※矢印のところを通す。



写真93

蓋を表にして紐を縛り、本体にかぶせます。紐の長さを確かめ、2本の紐を撚ります。(写真94)
撚った紐は本体の裏側でフレラプに通した紐に縛ります。紐は長すぎると邪魔になるので、使いやすい長さにします。(写真95)



写真94



写真95

背負い紐をつくります。

シナの樹皮を使いますが、このシナの樹皮は立木から剥いで、ぬめりを取って乾燥させておいたものです。紐や糸にするときには水につけ、柔らかくしてから薄く剥ぎます。

樹皮の束ねる量を加減して撚り、端へ向かうに従い細くなるようにします。紐の中央部は直径5～6mmで、端は直径2～3mmです。(写真96、97)



写真96



写真97

背負い紐をフレラフの両端の紐に縛ります。
イクパスイのある面から見て、蓋が左にくるようにし、紐の長さは、個人が使いやすいように調節します。
今回は背負う荷物に取り付けるので少し短めにしています。(写真98)



写真98

完成です。(写真99、100、101、102、103)



写真99



写真100



写真101

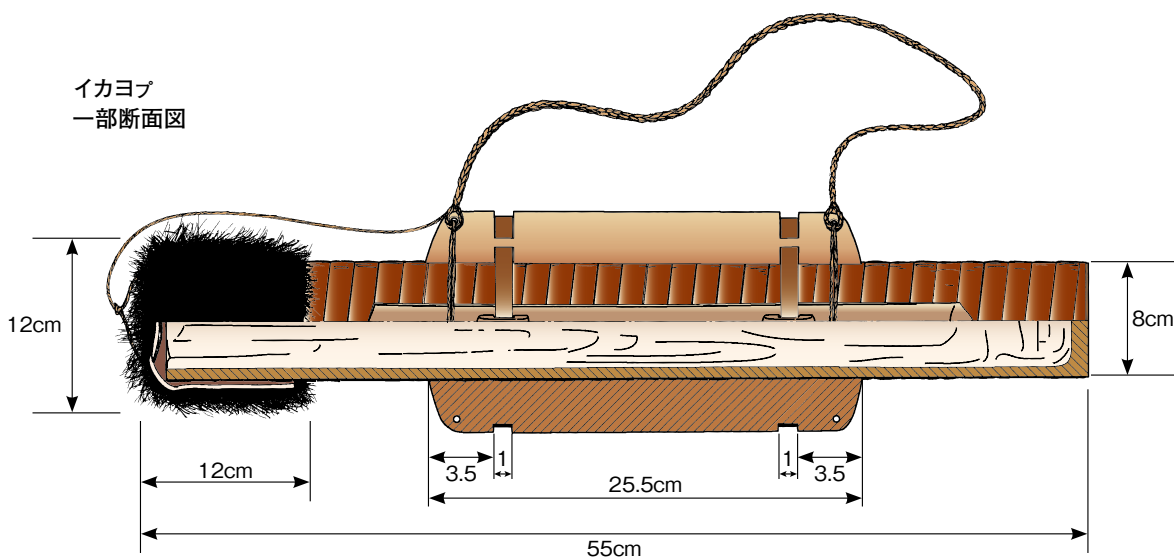


写真102



写真103

イカヨブ
一部断面図



製作者紹介

木彫家・ハンター

浦川太八さん

(浦河町在住)



イカヨピコロ (飾り矢筒)

イカヨピコロをつくります。

今回製作するイカヨピコロは現代の手法を織り交ぜているので、必ずしも伝統的な手法とは一致しません。(写真104、105、106)

【寸法】

長さ 57.5cm

幅 18cm

高さ 8cm

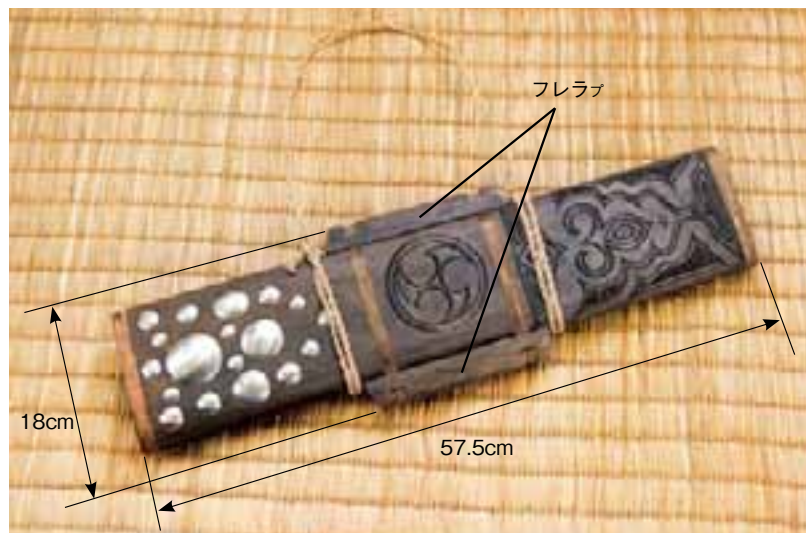


写真104

洋銀でできた飾り金具がはめ込まれ、アイヌ文様が彫られています。



写真105



写真106

※ここで紹介するイカヨピコロは平取町に住む貝澤徹さんが再現したものです。

材料

- ホオノキ (写真107) 長さ 約80cm (本体)
長さ 約18cm (フレラブ)
乾いていないと曲がったり、よれたりするので、
充分乾燥させてから使います。



写真107

- 洋銀 (写真108)
飾り金具に使います。



写真108

- サクラの樹皮 (写真109)
矢筒の補強に使います。



写真109

- シナの樹皮でつくった紐 (写真110、111)
シナの樹皮を薄く剥いで乾燥させたものを撚って
つくります。



シナの樹皮

写真110



写真111

- 接着剤 (写真112)
今回はシカのみま先を使います。



写真112

道具

アイヌの人々が使っていたものに鉋とマキリがありますが、今回は加工する用途に応じ、丸のみや平のみなども使用します。(写真113、114)



写真113

〈工具〉

- ①丸のみ（3種類）
- ②平のみ（2種類）
- ③曲丸（3種類）
- ④切り出し（ナイフ）
- ⑤印刀（3種類）

- ⑥鉄槌
- ⑦くさび
- ⑧鉋

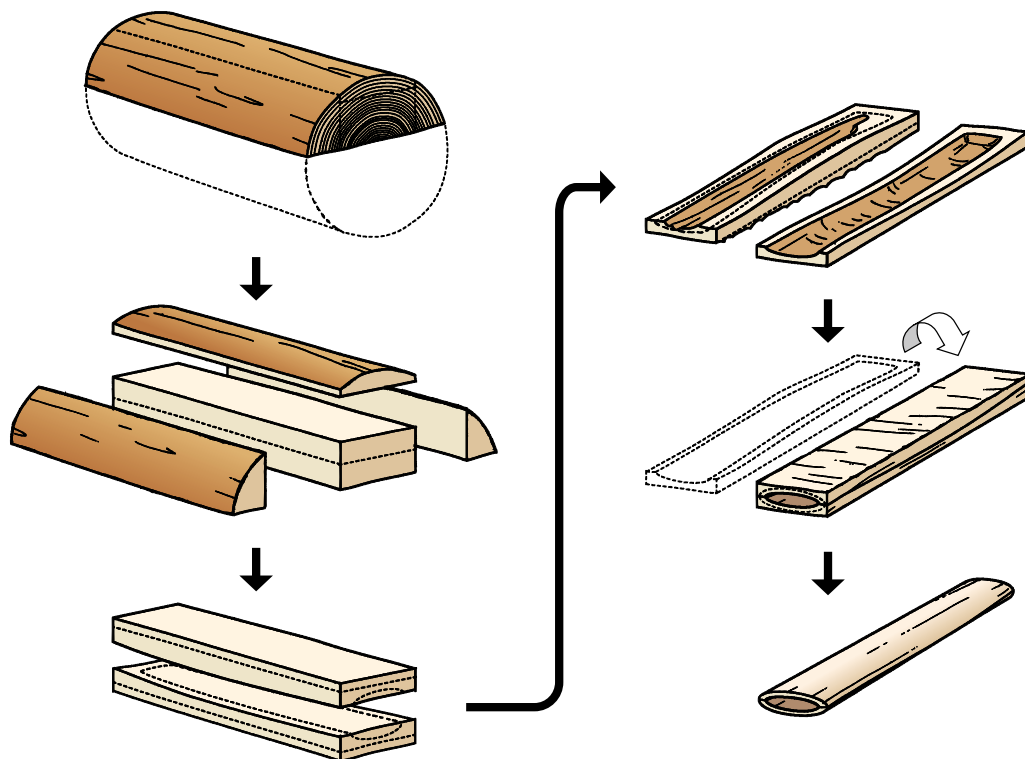
※この外、きりやチェーンソーなども使用しています。



写真114

本体製作

本体製作の流れ



本体をつくる

ホオノキは、芯を避け、縦10cm、横17cm、長さ80cmの四角柱に切ります。ホオノキは充分乾燥させたものを用います。(写真115、116)



写真115



写真116

くさびや鉋、鉄槌を使い、木目に沿って2つに割ります。(写真117、118)



写真117



写真118

木の根元側が矢筒の口になるように、割れた面を見ながら外側に墨付けします。(写真119)



写真119

2つの木材を合わせた厚さが4 cmになるように全体の様子を見ながら慎重に外側を削ります。
(写真120)



写真120

平のみなどで表面を整え、平らにします。(写真121)
内側に墨付けをし、丸のみなどで削ります。(写真122)



写真121



写真122

削る面が波打っているので逆目にならないように
目を読みながら、縦方向、横方向から削ります。
一度に大きく削らず、全体を見ながら少しずつ削
ります。(写真123)



写真123

削った面がまっすぐになりました。削った内側はやすりがけをせずに、張り合わせます。(写真124)



写真124

接着剤にはシカのみ先を使います。シカのみ先と湯を鍋に入れて火にかけ、よく溶けたところで、鍋を火からおろします。(写真125、126)



写真125



写真126

本体を合わせる面それぞれに指で塗り、冷めて固まらないうちに張り合わせます。(写真127)



写真127

クランプをつかい、1昼夜置いて固まらせます。(写真128)



写真128

接着剤が固まったら、平のみを使い、本体の厚さ1～1.5cmになるまで外側を削ります。木目を見ながら角を落とし、楕円形にします。(写真129) 外側も内側同様やすりがけはせずに平のみで整えます。

(写真130)



写真129



写真130

本体ができました。(写真131、132、133)



写真131



写真132



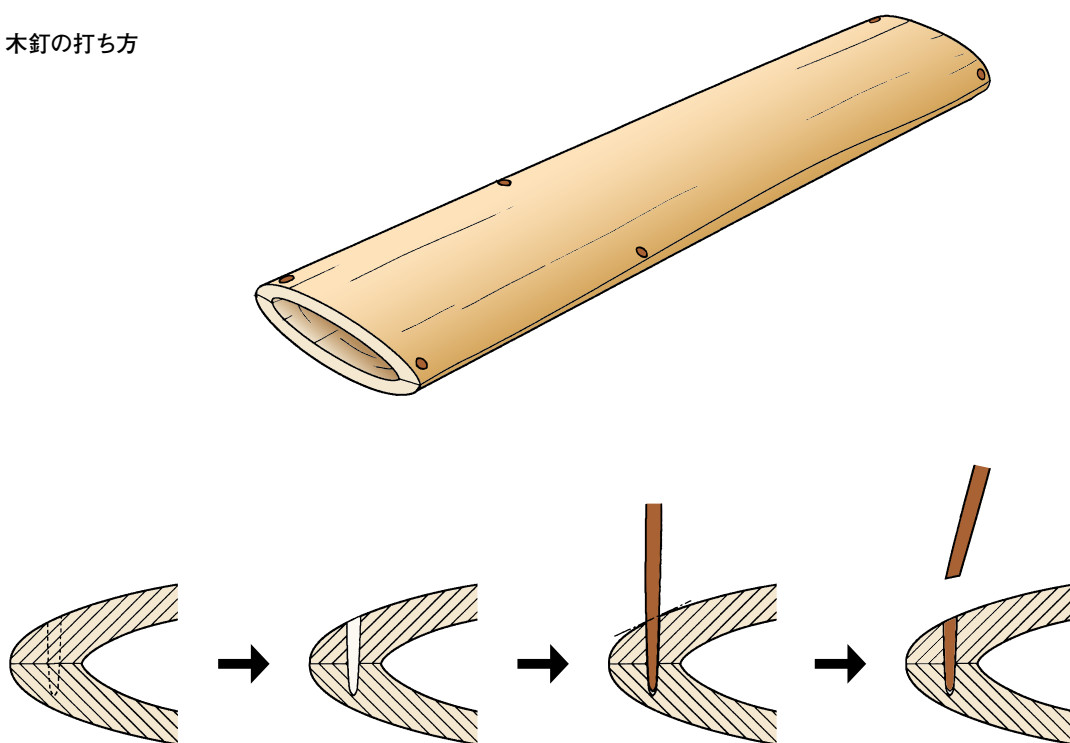
写真133

木釘で本体を固定します。
今回は硬くて腐りにくいエンジュの木を使いますが、木釘に使う木の種類は特に問いませんが、木を直径2～3mmの棒状にします。(写真134)



写真134

木釘の打ち方



きりを使い、本体の裏側6箇所に通させないよう穴をあけます。(写真135)
木釘を打ち込み、余った分は切り落とします。(写真136、137)
この際、接着剤は使いません。



写真135



写真136



写真137

木釘は後に巻くサクラの樹皮で隠れます。(写真138)



写真138

文様を彫る

文様を彫ります。表側の中央から底部にかけて文様の下書きを入れます。裏側には文様を入れません。(写真139)



写真139

中央に巴紋ともえを彫ります。巴紋はイカヨピコロに使われる文様のうち代表的なもののひとつです。印刀の刃を立て、文様に沿って切り込みを入れます。次に、少し刃を寝かせて削り、文様を浮きあがらせます。(写真140)

文様の彫り方

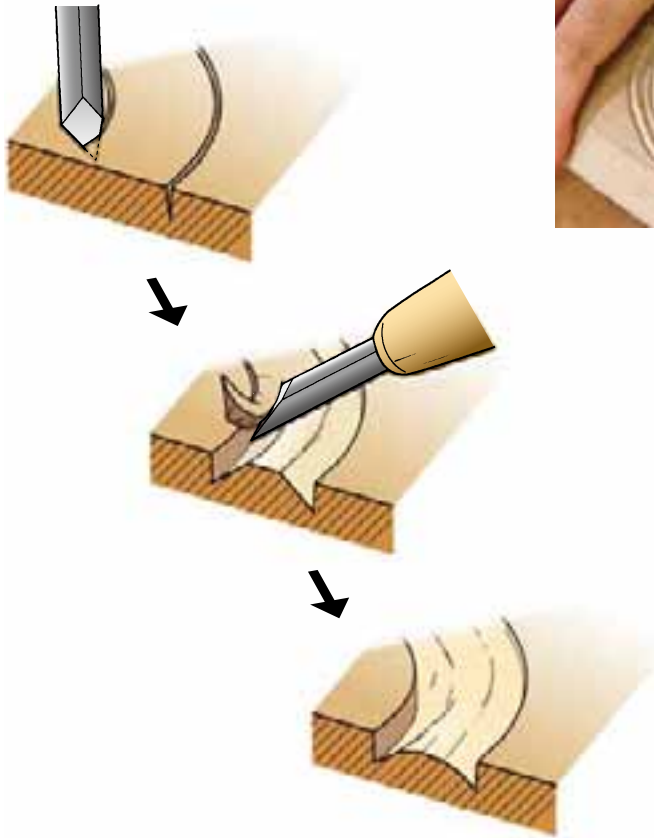


写真140

中央から底部にかけて文様を彫ります。モレウ（渦巻文）やアイウシ（括弧文）などいくつかの基本となる文様を組み合わせ、左右対称に彫ります。今回彫る文様は貝澤徹さんがこれまでよく使ってきた文様です。(写真141、142)



写真141



写真142

文様ができました。(写真143、144、145)



写真143



写真144



写真145

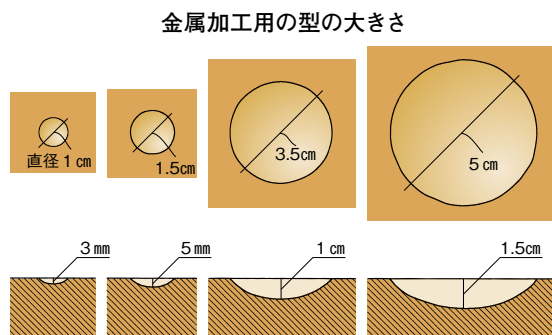
金属飾りをつくる

金属の飾りをつくります。

金属板を加工する型と打ち出す棒を用意します。この型は貝澤徹さんが特別につくったもので、直径が異なるいくつかのくぼみがあります。(写真146)



写真146



金属板を切り、直径1.5cm～5 cmまでの5種類の円盤をつくります。(写真147、148)



写真147

《製作枚数》

- 直径1.5cm×7枚
- 直径 2cm×7枚
- 直径3.5cm×2枚
- 直径 4cm×1枚
- 直径 5cm×1枚



写真148

型のくぼみに合わせて、金属の板を置き、棒を木槌で叩きます。(写真149、150)



写真149



写真150

中央が膨らんだ形になりました。すべての円盤を同じように加工します。(写真151)



写真151

円盤を本体にはめていきます。
本体の上に加工した金属を置き、印をつけます。
(写真152)



写真152

印刀を使い、線に沿って切り込みを入れていきます。本体の面に直角ではなく刃を斜めに少し寝かせ、深さ2～3mmになるように削ります。(写真153)

このように彫ることで、円盤をはめたときに、しっかりと支えることができます。

円盤を固定します。

彫ったところに円盤をはめ、指で押し広げます。

(写真154、155)

円盤が広がることで彫った溝に密着し、接着剤を使わなくても固定することができます。

円盤のはめ方

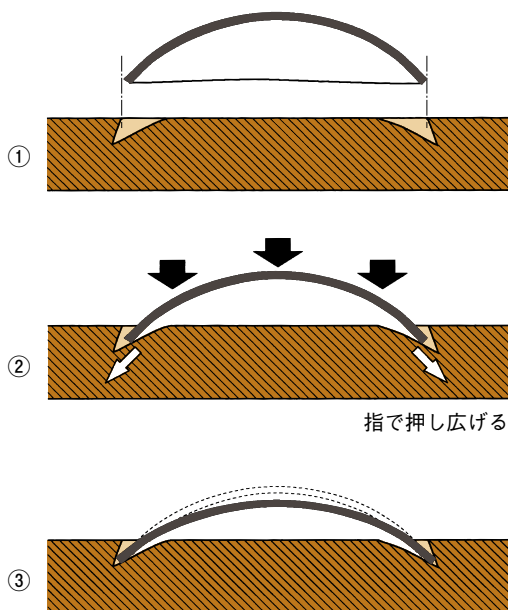


写真153



写真154



写真155

全部で18枚の円盤をはめます。
金属の飾りができました。(写真156)



写真156

フレラップをつくる

フレラップをつくります。フレラップは本体を両側からはさみ、補強するためのものです。長さ18cmのホオノキを使います。(写真157)

平のみで削り、長さ17.5cm、高さ3cm、底の幅2.5cmの三角柱にします。(写真158)

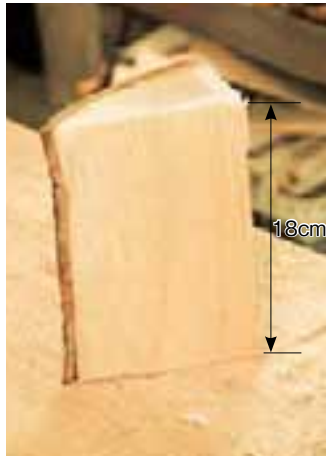


写真157



写真158

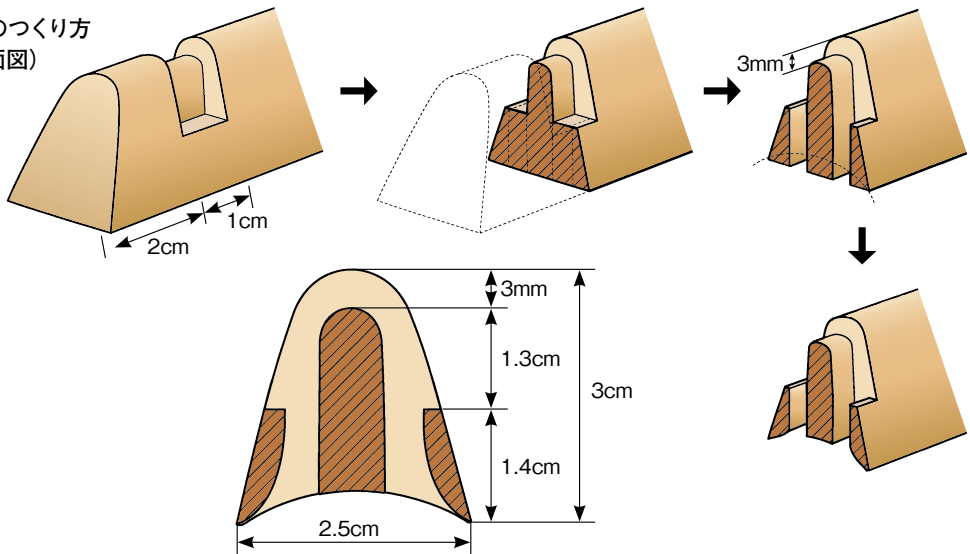
上の辺は曲面にして、両端は斜めに削り落とします。(写真159)



写真159

サクラの樹皮を通すための溝と穴をつくります。

フレラフのつくり方
(一部断面図)



両端からそれぞれ2cmのところのこぎりで切り目を入れます。

平のみや切り出しを使い、幅1～1.2cm、深さ3mmの溝をつくります。(写真160)



写真160

次に、きりを使い、溝に穴をあけます。(写真161)

切り出しで削り、穴を貫通させます。縦1～1.2cm、横2mmの穴を4箇所あけます。(写真162)



写真161



写真162

フレラフの底面を矢筒側面のカーブに合わせて削ります。(写真163)
フレラフができました。(写真164)



写真163



写真164

接着剤を使い、木釘の位置と溝の位置を合わせるように本体の中央部に固定します。
(写真165、166、167)



写真165



写真166



写真167

着色する

ススを使って黒く着色します。

かつてススは、身近なものであり、鍋底についたものなどを利用していました。(写真168)



写真168

ススはそのまま擦り込んでも染み込まないので、濡らした布にススをつけて擦り込みます。

(写真169、170)



写真169



写真170

全体に、染み込むように擦り込んでいきます。矢筒の内側には塗りません。(写真171)

乾燥させたあと、乾いた布でこすると、光沢が出てきます。

紙やすりなどでやすりがけをすると木の表面が荒立つため、擦り込んでも艶が出にくくなります。光沢を出すには、彫刻刀などで凹凸をなくすようにして、削ったままにしておきます。



写真171

サクラの樹皮を巻く

サクラの樹皮を巻き付けます。樹皮を繊維に沿って幅1～1.2cmに切り、水に漬けておきます。

(写真172)



写真172

数十分漬けて、柔らかくなったところでマキリを使い、表と裏を削いで薄く滑らかにします。

(写真173)

樹皮を矢筒本体の矢口側と底側両端に巻きます。

樹皮を巻いて、長さを計ります。樹皮の長さは合わせ目より約2cm長くとります。(写真174)



写真173



写真174

樹皮の先端を加工します。(写真175)

※樹皮の加工については本マニュアル「サクラの樹皮の加工」(p.22～24)を参照してください。



写真175

加工した樹皮を輪にし、矢口に取り付けます。(写真176、177)

この段階では樹皮が大きめでゆるくなっていますが、乾燥すると収縮して締まります。



写真176



写真177

フレラフの穴に樹皮を通します。(写真178)

本体の表側から反対側に通してつなぎ、本体に通したまま切り出しを使って先端を加工します。樹皮につなぐときに工具を使うと作業は容易になります。(写真179)



写真178



写真179

樹皮が乾燥して縮まないうちにつなぎ目をフレラフの近くに移動します。(写真180)

こうすることで、つなぎ目の補強になるとともに飾りとしての機能も兼ねます。



写真180

紐を取り付ける

本体に紐をつけます。

シナの樹皮でつくった紐をさらに三つ編みにして太くし、太さ6～7mm、長さ2mの紐をつくります。
(写真181)



写真181

フレラプをはさみ、正面からみて左側に矢口がくるように紐を巻きます。

2周させて縛り、片側を結んだ後、吊り下げる部分の長さ70cmを残し反対側を巻いて留めます。
(写真182、183)



写真182



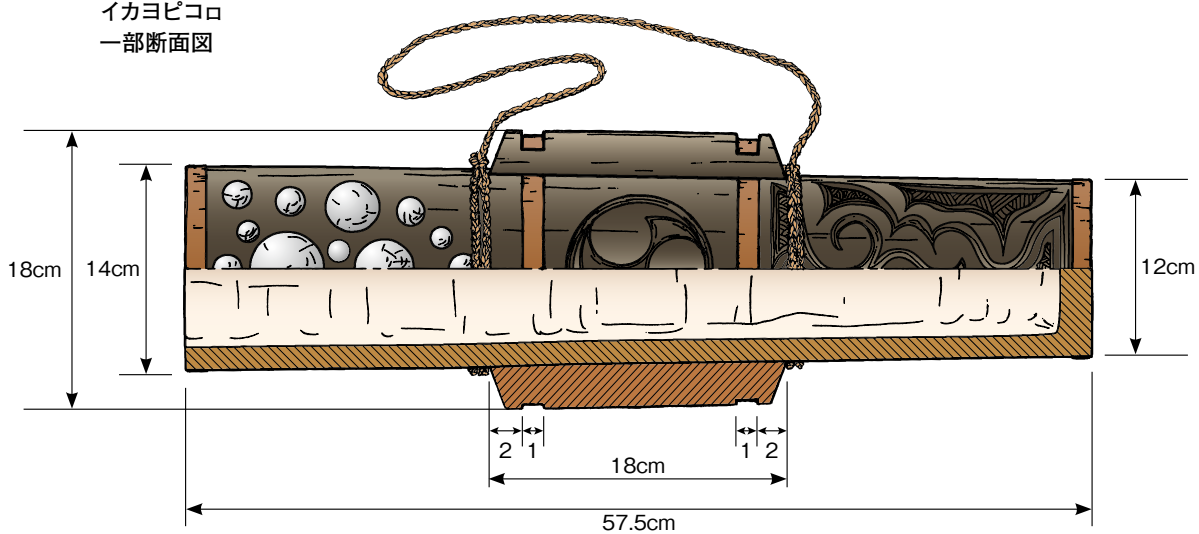
写真183

イカヨピコロが完成しました。(写真184)



写真184

イカヨピコロ
一部断面図



製作者紹介

木彫家

貝澤 徹さん

(平取町在住)



おわりに

アイヌの人々は普段矢筒を家の中の宝物置き場に置き、大切にしていました。(写真185)



宝物置き場 (帯広百年記念館提供)

写真185

今回製作したイカヨブやイカヨピコロのほかにもポンイカヨブ (小さい矢筒) やヤリカヨブ (樹皮でできた矢筒) などがあります。(写真186、187)

ポンイカヨブは枕の下に入れて病気が治るようにお願いしたり、まじないをする際に使われたといわれています。

ヤリカヨブはサクラやシラカバなどの樹皮でつくられており、軽いので猟へ行くときに重宝されました。

矢筒はアイヌの人々にとって生活に欠かせないものだったので。



ポンイカヨブ
(財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構蔵) 写真186



ヤリカヨブ
(北海道立アイヌ総合センター蔵) 写真187

参 考 文 献

矢筒の製作にあたって参考となる文献をいくつか紹介します。

- アイヌ文化保存対策協議会編
1969：『アイヌ民族誌』第一法規出版株式会社
- 秋田県立博物館編
1994：秋田県立博物館特別展図録『北方文化のかたち・アイヌ文化展』秋田県立博物館
- 旭川市博物館編
2004：『旭川市博物館収蔵品目録XIV－民族資料／生業関係－』旭川市博物館
- 萱野 茂
1978：『アイヌの民具』すずさわ書店
- 萱野茂（文）清水武男（写真）
2005：『アイヌ・暮らしの民具』株式会社クレオ
- 萱野茂（監）横山孝雄・秋辺得平（編）
1995：『アイヌ民族写真・絵画集成』2 民具 日本図書センター
- 萱野茂（監）横山孝雄・知里むつみ（編）
1995：『アイヌ民族写真・絵画集成』3 文様 日本図書センター
- 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構編
1998：『アイヌの美・彫る－清野謙次コレクションを中心に』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
1999：『アイヌの四季と生活－十勝アイヌと絵師・平沢屏山－』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2000：『馬場・児玉コレクションにみる 北の民 アイヌの世界』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2003：『収蔵品目録』3 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2004：『収蔵品目録』4 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2006：『アイヌ文様の美－線のいのち、息づくかたち－』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
2008：『アイヌの工芸－ペンシルバニア大学考古学人類学博物館ヒラーコレクション－』
財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
- 財団法人アイヌ民族博物館編
1990：『児玉資料目録Ⅰ』故児玉作左衛門北海道大学名誉教授収集資料目録
財団法人アイヌ民族博物館
1992：『児玉資料目録Ⅱ』故児玉作左衛門北海道大学名誉教授収集資料目録
財団法人アイヌ民族博物館
1993：『亮昌寺資料目録』財団法人アイヌ民族博物館
1996：『樺太アイヌ－児玉コレクション－』財団法人設立20周年記念・第11回企画展
財団法人アイヌ民族博物館

- 佐々木利和
2001：『アイヌ文化誌ノート』吉川弘文館
- 杉山寿栄男
1992 [1926]：『アイヌ文様』北海道出版企画センター
- 杉山寿栄男編
1975 [1934]：『北の工藝』北海道出版企画センター
- 杉山寿栄男・金田一京助
1973 [1942]：『アイヌ藝術』第二巻 木工篇 北海道出版企画センター
- 東京国立博物館編
1992：『東京国立博物館図録目録』アイヌ民族資料篇 東京美術
- 東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館編
1990：『アイヌ文化展図録』東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
- 荻原真子・古原敏弘・ヴァレンチーナV.ゴルパチョーヴァ
2007：『ロシア民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』草風館
- 平取町立二風谷アイヌ文化博物館編
2003：『北海道二風谷及び周辺地域のアイヌ生活用具コレクション』国指定重要有形民俗文化財 調査報告書 平取町教育委員会
- SPb-アイヌプロジェクト調査団編
1998：『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵 アイヌ資料目録』草風館

矢筒を展示・収蔵している施設

矢筒を展示、あるいは収蔵している施設をいくつか紹介します。

◎北海道内

- 阿寒アイヌコタン
 - 旭川市博物館
 - 網走市立郷土博物館
 - 浦河町立郷土博物館
 - 帯広百年記念館
 - 萱野茂・二風谷アイヌ資料館
 - 川村カ子トアイヌ記念館
 - 釧路市立博物館
 - 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
 - 財団法人アイヌ民族博物館
 - 札幌市アイヌ文化交流センター
「サッポロピリカコタン」
 - 標津町歴史民俗資料館
 - 昭和新山アイヌ記念館
 - 新ひだか町アイヌ民俗資料館
 - 弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館
 - 苫小牧市博物館
 - のぼりべつクマ牧場 ユーカラの里
 - 函館市北方民族資料館
 - 美幌博物館
 - 平取町立二風谷アイヌ文化博物館
 - 北海道開拓記念館
 - 北海道大学植物園・博物館
 - 北海道立アイヌ総合センター
 - 北海道立北方民族博物館
 - 幕別町蝦夷文化考古館
 - 北海道埋蔵文化財センター
- 釧路市阿寒町阿寒湖温泉4丁目7-19
 - 旭川市神楽3条7丁目
 - 網走市桂町1丁目1-3
 - 浦河郡浦河町西幌別273-1
 - 帯広市緑ヶ丘2 緑ヶ丘公園内
 - 沙流郡平取町二風谷79-4
 - 旭川市北門町11丁目
 - 釧路市春湖台1-7
 - 札幌市中央区北1条西7丁目
 - 白老郡白老町若草町2-3-4
 - 札幌市南区小金湯27
 - 標津郡標津町字伊茶仁2784
 - 有珠郡壮瞥町昭和新山
 - 日高郡新ひだか町静内真歌7-1
 - 川上郡弟子屈町字屈斜路市街1条通11
 - 苫小牧市末広町3-9-7
 - 登別市登別温泉町224
 - 函館市末広町21-7
 - 網走郡美幌町みどり253-4
 - 沙流郡平取町二風谷55
 - 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
 - 札幌市中央区北3条西8丁目
 - 札幌市中央区北2条西7丁目
 - 網走市字潮見309-1
 - 中川郡幕別町千住114-1
 - 江別市西野幌685-1

◎北海道外

- 東京国立博物館
 - 東北大学総合学術博物館
 - 大阪人権博物館
 - 国立民族学博物館
 - 天理大学附属天理参考館
- 東京都台東区上野公園13-9
 - 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
 - 大阪府大阪市浪速区浪速西3-6-36
 - 大阪府吹田市千里万博公園10-1
 - 奈良県天理市守目堂町250

アイヌ生活文化再現マニュアル
矢 筒
【イカヨブ・イカヨピコロ】

2008年12月 発行

発 行 財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目

プレスト1・7 (7階)

TEL (011) 271-4171/FAX (011) 271-4181

本書の内容の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、法律で禁止されていますので、あらかじめ財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構あてに許諾をお求めください。

